猿倉山ビール醸造所

SARUKURAYAMA BREWERY

霊峰･八海山を望む里山に猿倉山ビール醸造所は立地する。日本海を渡った湿った空気が越後三山により降雪をもたらし、真冬には3メートルを超す積雪を記録する。冬の間に山に降り積もった雪が溶けて山の地面に沁み込み、長い年月を経て、再び地上に出てきて岩の間から噴き出す。仕込水には清酒八海山と同じく、まさに自然の恵みである八海山系の地層からの湧水『雷電様の清水』を使う。四季の彩り豊かなエリアに立地するこの醸造所では、建築やランドスケープの片方だけでは満たされない、双方が不可分なものとして周囲の雄大な自然の清々しさに呼応する空間を目指した。幸いにも造成施工者は圃場整備も手掛けており、つまり田園風景の地形をつくる人々が関わったといえる。建築とランドスケープの融合実現には、南魚沼という米どころの建設技術によるところが大きい。

The Sarukurayama Brewery is located in a rustic area at the foot of Mt Hakkaisan, long regarded as a sacred mountain. The area is under more than three meters of snow in mid-winter. The snowmelt seeps into the mountainside, eventually gushing from springs. It is used to make the Hakkaisan brand of sake and Sarukurayama Brewery's local beer. Set against a mountain backdrop, the brewery was designed to blend in with the surrounding forested landscape. With a 5/10 pitch (26.6 degrees), the building's roof slants in line with the slopes to seamlessly connect with the ground. When covered in snow, the building looks like a snow hut, only its triangular façade visible. The interior is designed like a passageway, partially sunk into the ground and with a retaining wall on either side. Parts of these walls are connected to the building, contributing to its earthquake resistance and serving as a buttress against the weight of the snow on the roof truss. In addition to being a brewery, the building was designed to be a facility where visitors can enjoy freshly brewed beer and a scenic view of Uonuma. The dining space is separated from the brewery facilities by a glass wall that allows visitors to watch brewing in progress. The simple, factory-like interior creates an uncomplicated, cozy atmosphere.



美しい杉林と落葉広葉樹林からなる周辺の山並み。外観は背後の山々を借景として建築とランドスケープが一体となった里山の風景の一部となるようにした。



計画地の高台からは水墨画のような魚沼の風景が望める。



屋根の勾配は周辺の地盤にあわせ５寸勾配とした。



冬は建築が消える。



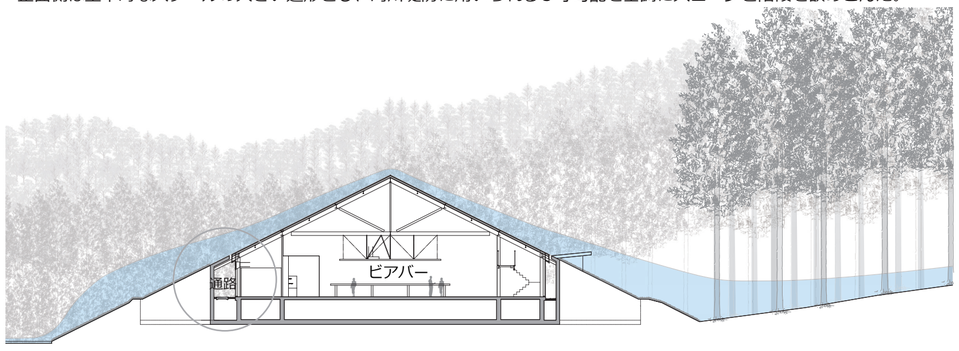
正面側は土木的なスケールの大きい造形とし、河川堤防に用いられる３寸勾配を基調にスロープと階段を嵌めこんだ。



スロープは周辺環境へのビスタになることを意図した。



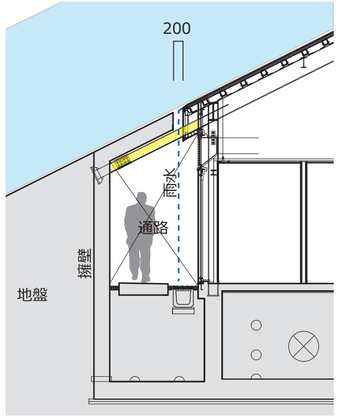
地盤がそのまま屋根につながっていく。

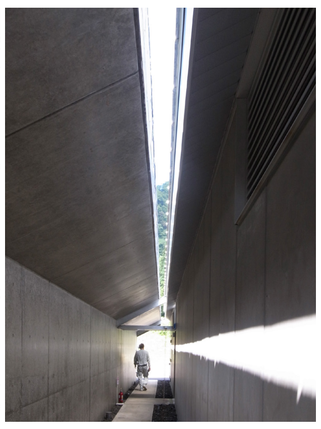


冬はかまくら状に完全に雪に埋もれ三角形の外壁の一部だけが顔をあらわす。

短手断面図

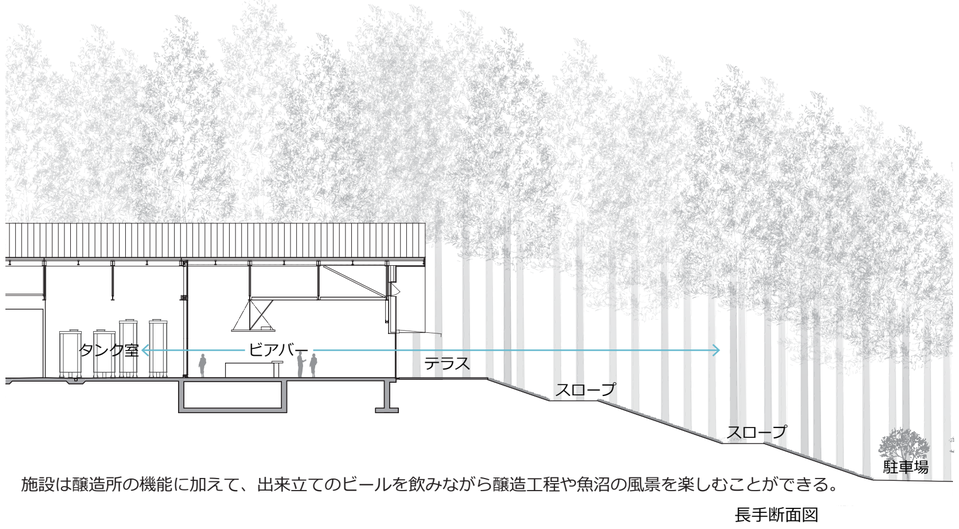
建物両側に設けた擁壁で地盤とは縁を切り、建物との間には通路を設けた。上部には擁壁から延びる屋根を設け、建物軒先との間には200mmの隙間を設け、光を採り入れた。雨水はこの隙間から犬走りに落ちる一方、雪はその性質上両側がつながり、雪が吹き込むことなく通行が可能なトンネルとなる。擁壁は一部を建物と構造的に連結し、建物の耐震要素としても寄与している。また毎年繰り返される積雪によるトラスの変形を抑えるため、擁壁はトラスのスラストを抑えるバットレスとしても機能している。





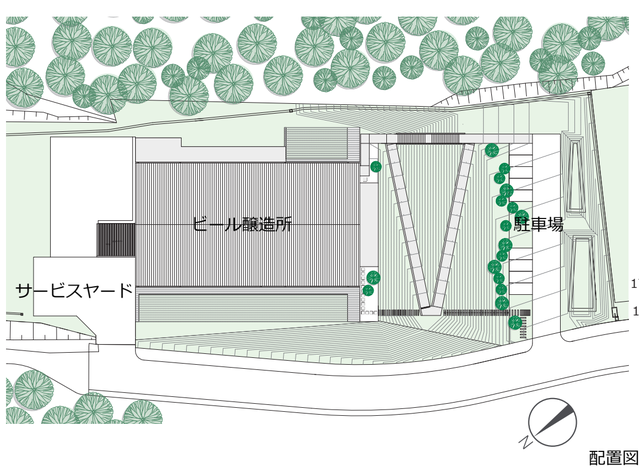


インテリアは工場らしい質素な仕上げを用い、素朴で居心地のいいものとした。



施設は醸造所の機能に加えて、出来立てのビールを飲みながら醸造工程や魚沼の風景を楽しむことができる。

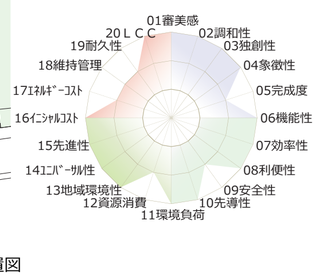
長手断面図



配置図

環境・設備デザインの評価

A.感性軸（造形） Form
B.機能軸（技術） Technology
C.社会軸（環境） Environment
D.経済軸（LCC） Life Cycle Cost



□評価項目		□特に重視したデザインの視点	□評価項目に対する設計者のデザイン意図（従前のデザインに比較し、優れている部分、卓越している部分に関して具体的に記述してください。）	□自己評価欄 普通 0	優れている +1	卓越している +2	小計
A.感性軸（造形） Form	01審美感	☆	主役はあくまで周辺の景観で、建築とランドスケープはその引き立て役に徹し			○	2
	02調和性	☆	華美な素材は用いず自然そのものや素朴な材料を用いて景観になじませている。			○	2
	03独創性	☆	周辺の山並みと呼応する建築形態と、それと連続する地形により、建築やランドスケープの片方だけでは満たされない、双方が不可分なものとして、周囲の雄大な自然の清々しさに呼応する風景を実現している。			○	2
	04象徴性	☆	建築とランドスケープの境界部分にはスリットを設け、光と木を香く半屋外の通路としている。			○	2
	05完成度		冬はスリットを超えて雪がつながり、かまくら状になり風雪を防ぐことができる。 建築の屋根勾配と造成地形の勾配をそろえることで、あたかも大地と建築が一体化したような造形とし 背後の山並みと相まって象徴性の高い造形を実現している。 木の外壁がエージングしていき、あらたに設けた芝生や樹木が成長し周囲の景観となじんでくることにより、 年を経るほど完成度が上がっていくことを意図している。		○		1
B.機能軸（技術） Technology	06機能性		豪雪地帯は屋根の雪おろしと除雪が必須となるが、地盤がそのまま屋根となっているため 雪下ろしは不要となっている。			○	2
	07効率性	☆	既存の地盤形状に合わせた建築形態は、地盤の造成を最小限に抑えている。			○	2
	08利便性		エントランスと駐車場の７メートルの高低差を２カ所の階段とスロープによる選択可能な動線を設け バリアフリー化を果たすとともに、様々なシークエンスの演出効果を期待している。			○	2
	09安全性		車道外の搬出入動線と来客動線を明確に分離することで、来客者の安全性を確保している。		○		1
	10先導性	☆	また冬の雪下ろしがないことにより作業者の安全性にも寄与している。 屋根の金属と芝生の滑りやすさを考慮して構造形状を予測し、それをもとに屋根の積雪荷重を 部位ごとに設定している。			○	2
C.社会軸（環境） Environment	11環境負荷		当大流出対策として調整池を設けており、環境負荷軽減のための機能性だけでなく、			○	2
	12資源消費		表面仕上げを草地とすることで、生物生息空間となることも意図している。 ヒアバーは木毛セメント板を中心とする再生材料を用いている。		○		1
	13地域環境性	☆	計画地周辺の「現存自然植生」を考慮た担種選定を行うとともに、調達した植栽材料は環境省の 「生物多様性保全のための国土区分（試案）」に留意して選定し、地域固有の生態系に配慮している。			○	2
	14ユニバーサル性		建築へのアプローチ動線のひとつであるスロープを建築前面に配置し、ランドスケープデザインの要素として 取り込むことで、老若男女に関わらず多様な人々が建築にアクセスする谷が風景の一部となっている。			○	2
	15先進性	☆	外観の緑豊かな一部を建物と構造的に連結し、建物の耐震要素としても寄与している。 また毎年繰り返される積雪によるトラスの変形を抑えるバットレスとしても機能している。			○	2
D.経済軸（LCC） Life Cycle Cost	16イニシャルコスト		ランドスケープは地形の造形を主題としているため、材料要素を絞り、芝生、砕石、コンクリート といった安価な材料を中心に構成している。			○	2
	17ランニングコスト		地域特性にあった樹種（郷土種）を選定したことで、気候や病害虫への耐性が強いため、		○		1
	18維持管理	☆	植栽の維持管理コスト低減に繋がっている。 降雪地帯であるため、除雪時の障害となる工作物を極力排し、除雪作業をしやすい計画としている。		○		1
	19耐久性		除雪作業が多くなるエリア（駐車場・スロープ・テラス）や、耐雪するエリア（屋根下部）は アスファルトやコンクリートといった耐久性を考慮した材料を選定している。		○		1
	20ＬＣＣ		造成盛土の材料は融雪による滑りや不同沈下にしないことに加え、計画地周辺で採取される確認しりの 粘性土を採用することで、材料運搬コストと補修費軽減、植栽維持管理の負荷軽減を図っている。			○	2